

令和2年（2020）

■ 9月1日（火）

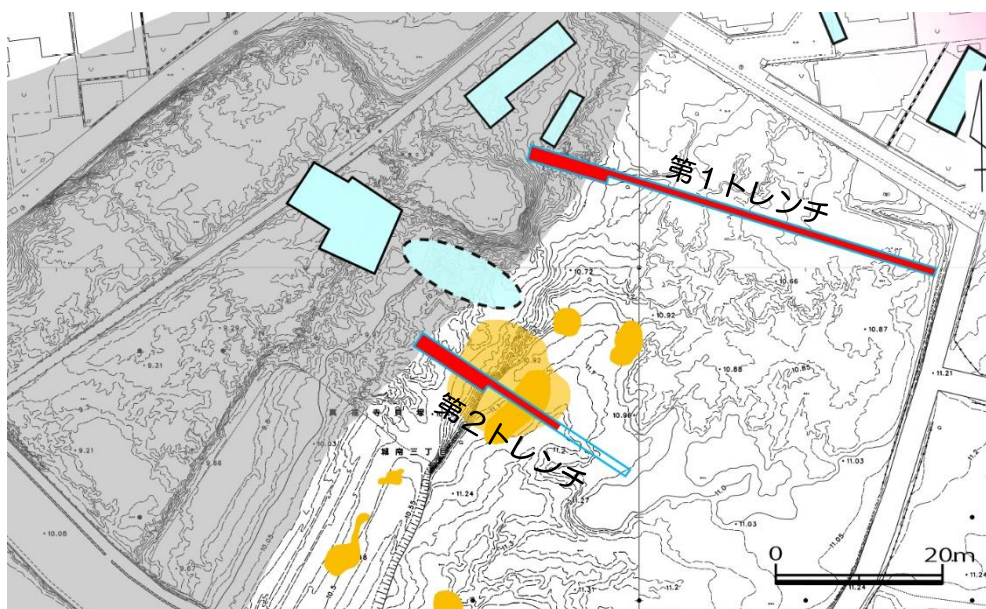
真福寺貝塚5年目の調査が始まりました。

昨年の調査に引き続き、史跡指定地の西側にある窪地から泥炭層遺跡にかけて、調査を行います。昨年設定した2つの調査区をさらに掘り下げて調査するとともに、一つの調査区はさらに調査範囲を拡大していきます。

調査は、縄文時代後期から晩期にかけて、綿々と積み重なっている縄文人の活動の痕跡を細大漏らさずとらえながら、縄文真福寺ムラのなりたちを解き明かすことを目指しています。史跡の保存と両立させながら発掘を行うために、トレンチという、溝状の調査区の中で調査を行います。

北側の調査区（第1トレンチ）は、全長50m、幅1mで、西側の10mの範囲では、幅を2mに広げています。

南側の調査区（第2トレンチ）は、全長20m、幅1mで、西側の10mの範囲では、幅を2mに広げています。また、東側は新たに10m、延長して調査を行います。



調査で使う道具やプレハブ、調査協力員のみなさんが使うトイレなどは、前日までに搬入・設営済み。調査初日の今日は、発掘調査歴戦の勇士の調査協力員の皆さんが集合し、調査方針のミーティングを行ったあと、早速作業にとりかかりました。昨年の調査のあと、遺跡の保護のために埋め戻した土を取り除く作業を行いました。

令和2年（2020）

■ 9月30日（金）

調査開始から1か月。①第1トレンチの窪地内、②第1トレンチの谷、③第2トレンチの谷際、④その上の谷際、以上の4か所を中心に調査を進めました。

今月の調査の進み具合と主要な成果は・・・・・・・・

### ①第1トレンチの窪地内

昨年度に引き続き、黒色土の下に堆積する暗褐色土中から縄文時代晩期中葉安行3d式を主体とする土器集積を検出しました（右の写真）。

多くの破片が南西方向に傾斜していることから、窪地内の地山が南西方向に傾斜しているものと予測されます。

≫写真手前が西側です。



### ②第1トレンチの谷

西側末端部が攪乱（かくらん＝遺跡よりも後の時代の掘り込み）を受けていることを確認しました（右の写真）。この攪乱は、南北方向に直線的に伸びていました。本地点周辺は、かつて慶応義塾大学が調査を行った地点の付近に位置しています。今後は、慶応義塾大学の調査地点との関連も含め、攪乱内の掘り下げを実施していきたいと思えます。

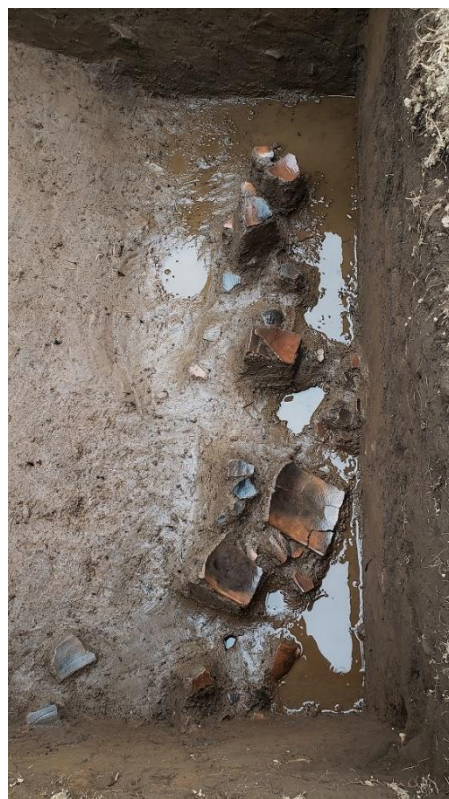
≫段がついている右側が攪乱。右上隅に白く見えるところは、大正時代に真福寺泥炭層遺跡発見のきっかけとなったため池跡。



令和2年（2020）

### ③第2トレンチの谷

縄文時代後期後葉安行2式を主体とする土器集積を検出しました。土器はいずれも西側へ向けて、現在の地表面の傾斜よりも急角度で集積しており、当時の斜面の傾斜角度を反映していると思われます。



### ④第2トレンチの谷際（台地のへり）

縄文時代後期前葉堀之内1式期の焼土跡を検出しました（下の写真）。火床面上に堆積する灰層は中心部が凹み、周囲がドーナツ状に盛り上がる様相を呈していました。土坑状の掘り込みの底が朱に焼け締まっています。この焼土跡がどのような目的のものだったのかは、これからくわしく検討していきます。



≫目にもあざやかな朱色に焼けた火床面